

お客様各位

## 乾椎茸の状況

平成 20 年度、国産乾椎茸の生産量は約 3,800 トン、21 年度は 3,600 トンになりました。乾椎茸の輸入量は、20 年度が約 6,800 トン、21 年度は 6,080 トン、今年 22 年上半期(1～6 月)累計で、3,480 トンになっております。(財務省貿易統計調べ)

平成 20 年度の国産については、消費者の国産品嗜好もあり高値で推移し、増産になりましたが、21 年は、異常気象による原因で減産となり、価格上昇が消費者の購入量に影響しました。今年 22 年は、3 月、最盛期の連続降雨で収穫減が懸念されましたが、軽いバシ葉比率が高く、冬菇、香菇の良品が高騰しております。中国産については、冷凍餃子事件の影響もあり、輸入の低迷が続き、中国国内では生椎茸の需要が高くなり、今年は乾し椎茸の産地相場が高騰いたしましたが、後半の品薄感から上半期までの輸入量が、去年同時期より約 8%増加しております。また、今年も引き続き CIQ の検疫検査、並び輸入時のモニタリング検査などの安全性を確保する体制は、引き続き強化しております。

この様な状況の中で、福建省の協力工場 4 社と品質面(トレーサビリティ)、安定供給に注力し**現地での完全商品化、お得意先の PB 商品を進めさせて戴いております。**

## 切干大根の状況

### **国産**

国内のおよそ 9 割を占める宮崎産の生産量は平年並みですが、1、2 月の干し作業時期に雨にたたられ B 級品の割合が多くなりました。来年の新物については、最盛期の 1～2 月の天候状況に左右されますが、2,000 トン以上の生産が可能と思われます。主に市販用小袋、学校給食などで消費されております。

### **中国産**

主要産地である雲南省が天候不順で大きく生産量を減らした事に加え、自国消費の増加で原料価格は昨年に比べ 2～3 倍の高騰で推移しています。年間推定輸入量は、約 2,000 トンで生産地は雲南省が多く、国産に比べて安価で生産量も比較的安定し、主に業務用で消費されています。当社では雲南省産の天日乾燥品の他に、福建省で毎年日本産青首大根の種を使い、契約栽培させた生大根を工場内でカットし、蒸気の熱を利用して熱風で乾燥させた機械乾燥品に力を入れております。

<機械乾燥品のメリットについて>

- ① 品質の安定
- ② 歩留がよい
- ③ 国産品に比べ、異物混入率が少ない

**業務問屋様、惣菜メーカー様などの業務用に年々使用量がふえております。**

平成 22 年 10 月吉日